

〒514-0009  
津市羽所町545番地  
TEL 059-225-4735  
FAX 059-229-8174

# はまゆう

三重県屋外広告美術協同組合

2003年1月1日  
はがき会報 第34号  
発行 第一部会  
情報文化委員会

## “ 業界と技能士に思う ” 日広連への提言



森本 晃 理事長  
日広連 理事

日広連独自の技能士会が、会長の肝いりで待望久しく誕生したことは、業界にとって喜ばしいことであった。しかし、技能士について、最近さまざまな議論がなされ、その関心の高さを象徴する中味について、否定的な意見が圧倒的である。

日広青連のホームページにも、技能士について疑問が投げかけられており、他にも潜在的に多くの皆さんが、技能士についてさまざまな思いを抱いておられるのではないかと危惧している。

確かに日広連においても、出場選手の確保・選手育成の指導者不足・育成資金の調達・参加者のメリット・技能士検定の受検者不足・2才の年齢制限等様々な課題が、山積しており、その議論が恒例となっているものの、根本的な解決策の提唱や、議論がされていないのが実態である。

近年、屋外広告業界においては、コンピュータの発達と共に、カラープリンターやカッティングプロッターの登場などで加工技術が著しく進歩し、従来の伝統的な技能が損なわれており、技能士の定義を根本的に見直さなければならなくなっている。

多くの課題を抱えながら、業界活動の一翼を担う技能グランプリへの参加も危ぶまれている。また、技能検定への受検者不足も深刻の度をましている。このような問題の本質を業界として何処に起因するかを見極め、時代のニーズに合った活動を推進するべきではないだろうか。

基本的には、匠の心を今に伝えて来た先人たちの伝統技能として、今後も継承するべきであるとする。しかし、実態に相応しない技能士の定義に基づいて、組織全体が、その活動をよしとするところに実態に合わない「ねじれ」現象を起こしており、推進する側が思うようにならないのが実態である。確かにコンピュータ化されたとは云え、手を加えなければ仕事にならないのも事実であり、技能はその基本をなしていることも周知の通りである。しかし、技能士資格を取得している人達もコンピュータを駆使して作業しているのが実態であり、今後もますますその傾向へ加速することは疑う余地がない。そこで実態を直視し、それに合った活動方針を日広連が業界として打ち立てるべきではないだろうか。

一案としては、伝統と云う形容は適切かどうかは、議論を待つところであるが、伝統技能を継承する技能士会を目指してはどうだろうかと思いたい。そして技能士会独自の活動指針として、後継者の育成と伝統技能の保存に努めるとするならば、組織にとっても業界にとっても自然体のように感じられるのではないだろうか。

しかしながら、あくまでも元来の技能士を目指すならば、実態に添った技能士制度の定義(コンピュータと技の有合)を業界として確立すべきである。そして、願わくば、厚生労働省に対して、技能検定制度の見直しを、強く働きかけるべきではないかと考える。その働きかけについては日広連に止まることなく、広く業界を代表して訴えるべきである。

何れにしてもこのテーマは、本会の技能開発委員会が推進の窓口であり、その決断をまつところとなるが、果たして技能開発委員会や技能士会だけの問題にとどめておいて良いのかがどうも疑問である。

わが業界には多くの曖昧が存在してきた。根本的な問題として、常に話題になる看板業と云う職種が認知されていない国の曖昧さがある。今は行政改革によって民営化に移行しつつあるが、広告士も長期にわたる曖昧さを世間にさらしてきた。今また技能士においても、制度そのものは国の認定を受けてきたが、定義そのものに実態と合わない曖昧が露呈している。

こうした制度の曖昧を指摘し、改善することは当然国の制度や、地方自治体の条例に起因するものであり一言で解決するものではないが、業界として自らの実態を明らかにし、その改善を提起することは、曖昧の是正につながるものと確信する。

さて、技能士は技能検定に合格した資格者(級～3級)であり、その資格者の組織が技能士会である。これを統括しているのが、中央職業能力開発協会であり、国においては、厚生労働省がその窓口である。毎年開催される技能グランプリは、中央職業能力開発センターと、全国技能士会連合会の主催で開催されており、日広連として毎回参加しているが、この参加選手の資格は、1級技能士の資格保持者に限られる。なお、2才の年齢制限云々は、国際技能オリンピックの出場資格の規定を指すものであり国内における技能グランプリの参加資格については年齢制限は特にない。なお、技能士は25業種にわたり、総じて全国技能士会連合会を形成しており、下部組織の活動は異業種交流の意味もこめて地域に定着しており、着実にその成果をあげている。

昨年設立された技能士会は、日広連独自の組織であり、技能士の皆さんにとっては、長年の夢の実現である。しかし、先人達が志した当時から今にいたる過程はあまりにも長く、著しく時代が変貌している。果たして従来の技能の継承は、産業に貢献できるのだろうかと云う疑問も当然と云えば当然である。

## ものづくりフェア 2002 メッセウイングみえ

三重県技能士会が主催する、ものづくりフェアが、12/7・8津市の三重県産業振興センター(メッセウイングみえ)で開催された。当組合も出展参加、県庁の県民コーナーでの40周年記念事業として行った、デザインコンクールでの入選作品を出展し、来場者の関心を得た。また、カッティングシートで遊ぼう! コーナでは、誰でもできる手作り切り絵で、クリスマスor正月を楽しく演出してみよう。の無料体験もあり関心を呼んだ。

ものづくりフェア体験風景

